

常磐線特急利用でらくらく水戸へ

早春の花香る茨城へ

かいらくえん

水戸偕楽園と筑波山梅林 日帰り

偕楽園

偕楽園は水戸市にある日本三名園の一つで、1842年に水戸藩第9代藩主・徳川斉昭によって造されました。「偕楽」とは「民とともに楽しむ」という意味で、藩主が自分でなく庶民にも園を開放したことから、その名が付けられています。約13ヘクタールの広さの園内には、梅の木が約100品種・3,000本ほど植えられており、梅の開花時期には「水戸の梅まつり」が開催されます。また、園内には好文亭という木造建築があり、藩主や家臣が詩歌や茶会を楽しむ場として使われました。なお、好文亭の上階からは千波湖や水戸市街を一望でき、美しい景観が広がります。歴史的価値と自然美を兼ね備えた文化施設として、今多くの人々に親しまれています。



筑波山梅林

筑波山梅林は、筑波山中腹に広がる梅の名所です。標高約250メートルの斜面に約1,000本の梅が植えられており、2月中旬から3月中旬にかけて紅梅・白梅が見頃を迎えます。晴れた日には関東平野や遠くの富士山まで望める絶景スポットとしても知られ、花と景観の両方を楽しめるのが魅力です。園内には遊歩道が整備されており、散策すると甘い梅の香りに包まれます。開花期には「筑波山梅まつり」が開催され、地元の特産品販売や野点(のだて)などの催しも行われます。自然と調和した美しい梅林として人気の観光スポットとなっています。



筑波山梅林

昼食

精肉店直営のレストランにて常陸牛や地元の食材を使ったお料理をいただきます

旅行日

2026年2月16日(月)

旅行代金

(お一人様) 29,000円

募集人員

20名様
(最少催行人員14名様)

偕楽園

東京駅(8:23) → (特急ときわ) → 水戸駅(9:49) → ●偕楽園(江戸時代、水戸藩藩主により造られた梅の名所) → ○地元食材を使ったお肉がメインのご昼食をご賞味 → ○筑波山梅林(筑波山の標高250メートル付近にあり、約1,000本の梅を見ることができる梅林) → 石岡駅(16:15) → (特急ときわ) → 東京駅(17:13)
食事:朝×・昼○・夕×

添乗員/同行します 食事/昼食1回

交通機関/JR(常磐線特急)、大型または中型または小型貸切観光バス(茨城交通等) 集合場所/東京駅常磐線特急ホーム

ご案内/※天候・道路状況により観光順序を入れ替える場合がございます。
※交通時間は、予定時間となります。ダイヤ改正などで時間が変更になる場合もございます。

※開花時期は気候条件等によって前後いたしますので、ご覧いただけない場合がございます。